

製品名: グルタミン合成酵素ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21487**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:1000-1:4000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:42kD;Observed MW:42kD

抗原情報

遺伝子名	GLUL
別名	GLUL;GLNS;Glutamine synthetase;GS;Glutamate decarboxylase;Glutamate--ammonia ligase
遺伝子 ID	2752.0
SwissProt ID	P15104
免疫原	ヒトグルタミン合成酵素の組み換えタンパク質

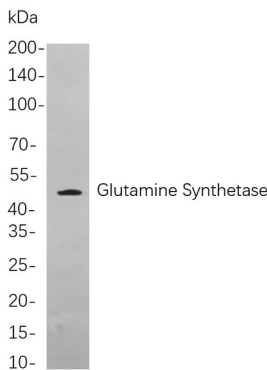
背景

細胞局在: 細胞質、膜。この遺伝子によってコードされるタンパク質はグルタミン合成酵素ファミリーに属し、ATP 依存性反応にお

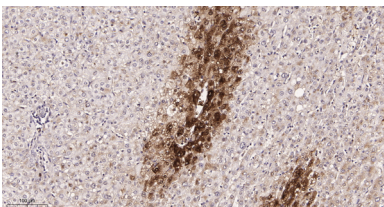
いてグルタミン酸とアンモニアからグルタミンを合成する触媒作用を担う。このタンパク質は、アンモニアおよびグルタミン酸の解毒、酸塩基恒常性、細胞シグナル伝達、細胞増殖において重要な役割を果たす。グルタミンは豊富なアミノ酸であり、いくつかのアミノ酸、ピリミジン、プリン の生合成に重要である。この遺伝子の変異は先天性グルタミン欠乏症と関連しており、一部の原発性肝癌検体においてこの遺伝子の過剰発現が観察されている。この遺伝子には、2番、5番、9番、11番、12番染色体に6つの偽遺伝子が存在する。選択的スプライシングによって複数の転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2014年12月]

研究分野

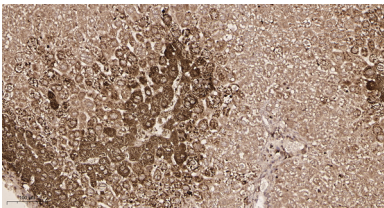
画像データ



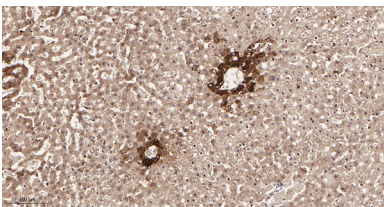
HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析 (グルタミン合成酵素ウサギ mAb を使用)。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を使用した。



パラフィン包埋ヒト肝細胞癌組織の免疫組織化学分析。1、グルタミン合成酵素ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、抗体賦活化には EDTA pH 9.0 を使用 (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋マウス肝臓組織の免疫組織化学分析。1、グルタミン合成酵素ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ラット肝臓組織の免疫組織化学分析。1、グルタミン合成酵素ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、抗体の回復には EDTA pH 9.0 を使用 (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。